

寫眞週報

編輯部情報閣内
ンセ十・號六十八第・日一十月十

昭和十四年十月十一日 第百八十六號 內閣情報編輯部 發行





旅船の鍊鍛 秋の上向位体

へ岐讃、後道、穂千高、島霧、蘇阿、府別、へ海内戸瀬

船商阪大

呈進書内案

建武の御偉業
をしのびつゝ

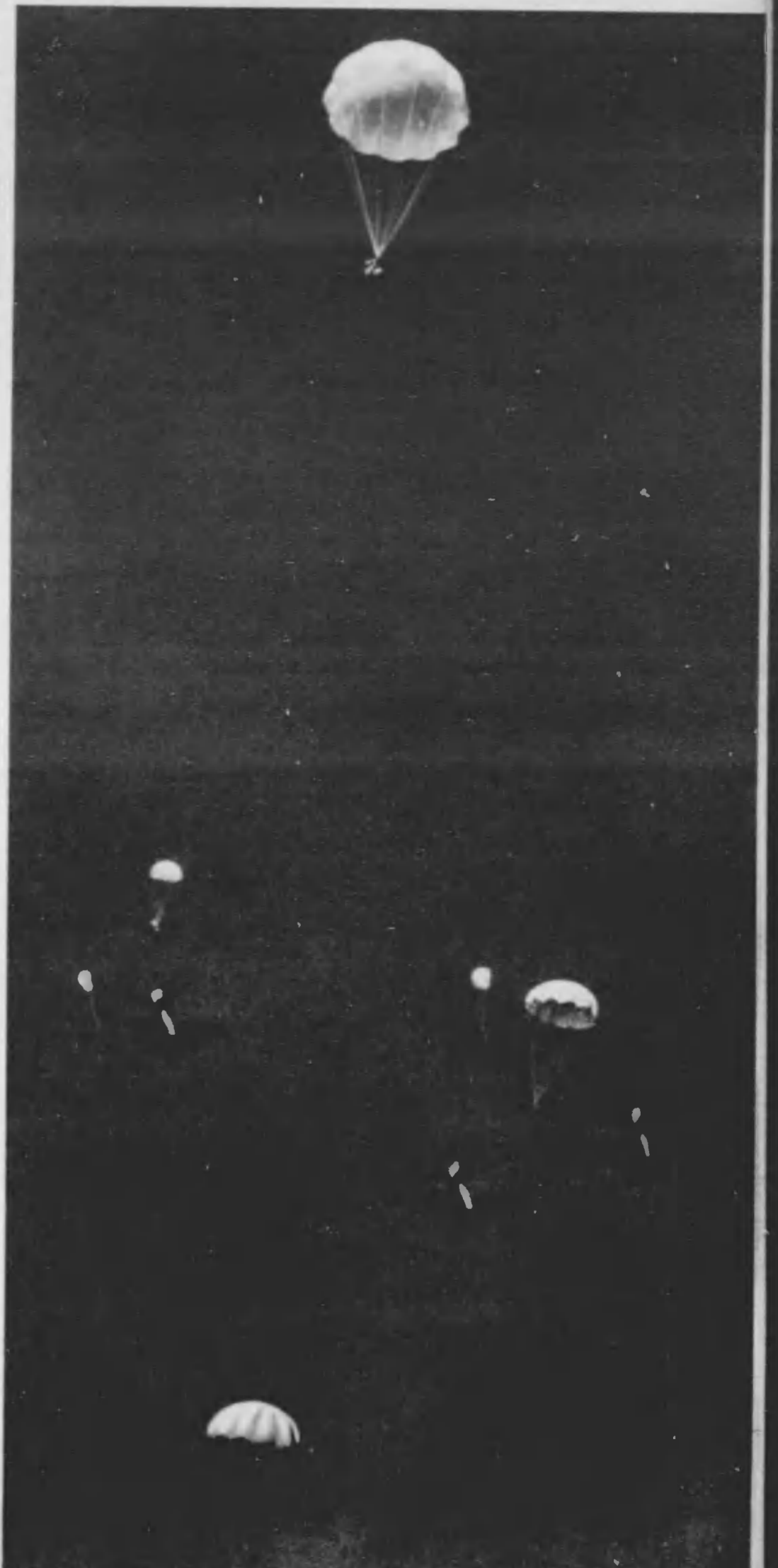
建武中興の御英主、
後醍醐天皇が吉野の行宮に
崩御あらせられてから六百
年、その御鴻業を偲び奉る
六百年祭に吉野神宮創建
五十年祭は、十月一日から
三日まで奈良縣吉野大社吉
野神宮で厳かに執り行はせ
られた。

六百年の昔をそのまゝに
蘇かた神樂の音が神域の
しじまに響き渡れば、参拜
者一同は涙を正し、長くも
時には山野に雨を渡がせ
給ひ、或は絶海の孤島に扁
舟を寄せさせ給ひて中興の
大業を成らせ給ひし天皇の
御聖徳を偲び奉り、聖職下
における盡忠奉公の決意を
神前に誓つたのであつた。

またこのとき建武中興の
御鴻業を冥賀し給へる護良
親王をはじめ参り、諸忠臣
を奉養した全國の官紳社か
らの神旗奉告祭も執行され

翼<搏羽に心赤

阪大 京東

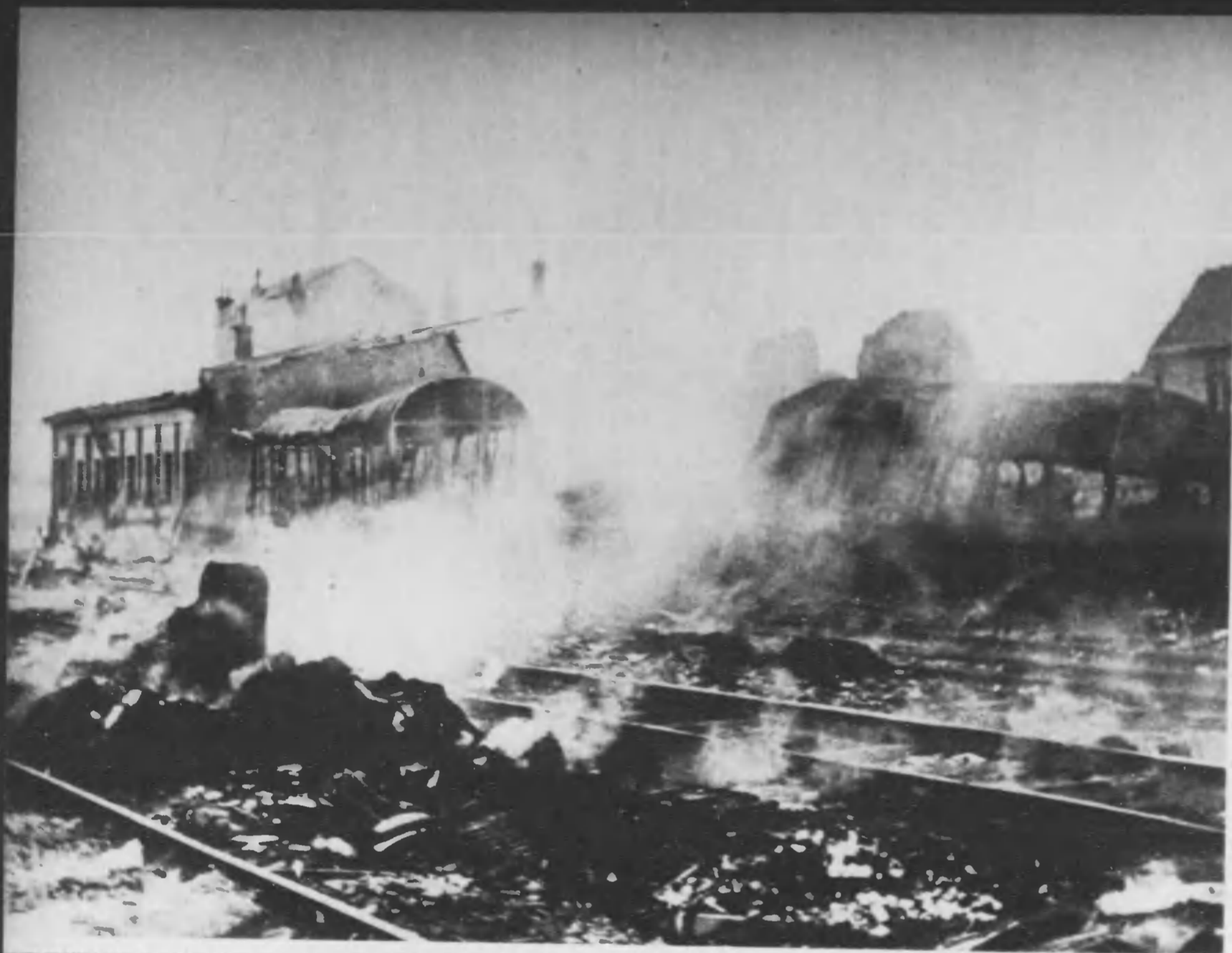


國民の赤誠こめた献納愛國機七十九機の命名式は興亞奉公日の十月一日總好の日本晴にめぐまれて東京、大坂の兩飛行場を式場として陸軍省主催の下に厳肅に行はれた。引續いて東京では陸軍航空本部、陸軍航空總監部の共同主催、大坂では飛行團の主催によつて豪華饗應を極めた空の攻防戦が展開され戦時下に一人入賞深い軍國・空の慶りを強調した。

1 紺雲の東京羽田空港上空にバツと白く咲いたパラソットによる物品投下飛行。東京市民の十分の一、無慮五十萬の大觀衆はその鮮やかな妙技に期せずして拍手を送る

2 この日、東京会場は長くも開院金謀議長官殿下はじめ奉り、宮様御十四方台臨、光榮一段とかいやく裡に晴れの愛國機四十三機の命名式は午後一時卅分から畑陸相の命名書朗讀によつて行はれた。寫眞は、ついで愛國機献納者、献金者へ感謝状を授與する畑陸相
3 急降下の機銃掃射で地上の假想敵機を炎上させる新鋭戦闘機(東京)
4 献納者代表から花束を受ける愛國機搭乗の荒鷲(東京)
5 命名された愛國機を祝福する中學生ブラスバンド(大坂)
6 大坂第二飛行場に銀翼をつらねる三十六機の愛國機献納式

撮影 内閣情報部



今も廢墟のクラカウ停車場
激戦を極めた南島ポロランドのクラカウ市も軍の空襲上りする狂攻に陥り、戦場の中心となつたクラカウ停車場は惨たる廢墟となつて餘燼の中にその姿を現はしてゐるが、凌がった上海戦當時の北停車場を思はせるものがある



隊球氣の軍ツイドはトツカ

信 通 外 海

會 協 員 宮

緊張のジークフリード
要塞線
あくまでもドイツ撃つべしとする英機軍を向ふに廻してジークフリード要塞線は極度に神経を尖らせてゐる。敵機來襲の報一たび響くや、要塞内の兵は忽ち部署につき、防空砲火は耳をつんざいて吼え立てる

恐るべき破壊の跡
兵力に於て、裝備に於て壓倒的なドイツ軍を敵にしては、如何に勇武を誇るポロランド軍も各所にあへなく潰え去らざるをえなかつた。ドイツ軍の恐るべき爆撃、砲撃は何物をも破壊せずには止まず、一本の樹木さへ満足な姿を残してゐない



退却のポロランド兵の破壊と、ドイツ側の砲撃に掃は落ち、道路は壊されてゐて連撃のドイツ機械化部隊は異常な困難と闘はねばならなかつた





洲欧の血流

◀

宣戦布告の日のパリ

フランスは去る九月三日、イギリスとともにドイツと戦争状態に入ったが、動員された壮丁は陸軍と西部戦線に輸送されてゐる。真実はパリから第一線に急ぐ騎兵部隊

◻

傷兵慰問のヒトラー總統

自ら陣頭に立つて東部戦線にあつたヒトラー總統は、一日病院列車を訪問、故郷に送られる傷兵を親しく慰問した



彼等との中絶戦線はドイツ軍の所と(中央)飛行機の



◻

濠洲も對獨宣戦

英本國と日と同じうしてオーストラリアは去る九月三日、ドイツと戦争状態に入った旨宣言したが、海軍將士も歸艦命令をうけて急遽横濱地に引きあげた

◻

中立をつづけるイタリ

戦争開始以來一ヶ月、ポランドはすでにドイツとソ聯に分割されたがイタリは依然中立をつづけ、その微妙な態度は全世界の注目的になつてゐる。真実は新聞スタンドで刻々變る情勢に見入るローマ市民



お嬢さん 街に出た

電聲や華美な服装に身をよつし、世間知らずの箱入娘と、とかく非難されがちであつたお嬢さんたちも、戦時下秋後一億一心の意気をみせ街頭に進出しました。

興亞奉公日の十月一日日比谷公園には東京婦人会、有栖川記念公園には警察官家庭婦人協会のお嬢さん達が、日の丸旗を掲げて早朝から出勤、秋晴れの一日を児童遊園地で楽しもうとお父さんやお母さんに伴はれて集つた街のお子さん達の上き遊び相手となり公園指導員の監督もきりりと子供たちのお守りや指導に大膽なお嬢さんぶりを發揮しました。

このお嬢さんたちの奉仕は毎週一日公園で行われます。

- 1 光ちゃんのお母さんは居りませんか。叫ぶメカホン、抱く腕に奉仕の愉快がこみ上げてくる。
- 2 「お水を飲む時はケンカしないで順番にお行儀よく飲みませうね。」
- 3 「純太郎さんのやうに強くならませうね。」お嬢さんの紙芝居師は満点。
- 4 「お園のために。」木蔭に集ひ高らかに合唱する子供にアコーディオンのメロディが楽しく伴奏する。
- 5 「先生！そんなに捕すつちやいやよあら、そうね、ごめんないよ。」やさしいお嬢さんに子供はすくなつく。
- 6 「先生、鶴よ。」さう、では紙芝居の砂場は歌書に湧く。
- 7 プランコから落ちたお子さんを早速話所に運びお嬢さんたちは甲斐々々しく手當をする。



撮影 仙波 廉

慰問袋

放浪軍歌から

園地文子作詞
竹岡信幸作曲

7.
の つまこの

つきは ばんしや そらのうへ

からん そーいぐ さたしな の ろまいの ゆーめいなる

7.
の つまこの

Trp. solo

一月は 萬里の 空の おも
無ら 十載は 一つとも
高き 雲の 影に 文筆の
筆の 影に 宿る まい
二 坊やの 知らぬ 父さん
荒野 遠く 大風 狂ふ
新 火の 中を 駆けまじく
舞の 鳥に 愛く 勇士

二 飽かぬ 伴なる 片羽
風なら 北へも 南へも
吹いて 行かうに ままならぬ
身は 一つさへ 重いもの
二人の 愛の 實も 結んで

二 女心の かよはると
実 は れやうか あの人
また だぬ 坊やの 影へ
心 癒りの せいやうと
舞 舞に 舞ぬ た



撮影 仙波



九月二十六日、利根川(利根川)附近堤防で内務省主催の下に大規模な水防訓練が行われました。わが國の河川は毎年八月から九月にわたつて大なり小なり出水に見舞われ、その都度折角の田畑を棄けし、家を流し、人命を奪ふことすらあります。大なる災害と闘つて資源を保護し、生産力を確保することは銃後を護るわれ／＼には大きな責任ですが、水を未然に防いで田舎や村落都市を護ることなどはその中でも大きな仕事といはねばなりません。

坂東太郎と稱はれ、關東大平野を豊かにするに利根川も、若し上利根の右岸堤が潰れると、満々たる濁水は忽ち埼玉縣下十萬町歩の美田を埋め、勢ひ餘つて速く帝都を襲ひ、商工業地帯に想像以上の大



損害を與へるといふ、恐るべき結果をもたらすのでこの危機に直面したのは昭和十年九月二十六日朝後の大出水で、この時は栗橋附近の堤防が水面上僅かに一尺しか餘らず、而も到るところに龜裂が生じ、水が漏れ、正に危難一髪のところだつたのです。このときは官民協力一致の『水防作業』でやつと食ひとめました。この水防作業も平常からその危機を豫想して充分な訓練をしておかねばそのときになつて敏速、沈着な作業ぶりを發揮することは出来ません。

四年前の大出水の日を記念して行はれたこの水防訓練に参加した内務省の士夫百二十名は凄かつたあの日思ひ出も新たに次の日の水災と闘ふべく真鍮な訓練をつけたのでした。



1 訓練種目の一、土俵へ土俵は水防作業の基本です。何百俵の土俵でもみる間に出来るやうに

2 種目の二、折返し 堤防の頂上に龜裂を生じたり、抜け崩れてきたとき、堤防の側面に竹を突き、土俵を杖にして折り返し、頂上で双方の竹を折返して縛り結び、しめつける法

3 種目の三、月の輪 堤防を透過して濁水する場合、その濁水によつて堤防がくづれないやうに、濁水を筒に半月状に土俵をつみ重ね、その内に濁水を溜めて水壓を減じ、水を緩やかに土俵上から放流する法

4 種目の四、掛木 激流のために堤防の川方が崩壊するのを防ぐため、枝葉の繁つた樹を根元から伐り、杖に土俵を結びつけ、根元の方を堤防の杖に繋いで流し掛ける法

5 種目の五、五徳縫 龜裂を生じた箇所に一メートル位の間隔に三本又は四本の竹を地中深く突き、竹の上部を縛り結んでこの上に土俵をのせます。これによつて龜裂の擴大及び堤防のすべり出しを防ぐのです

6 種目の六、積土俵 堤防が沈下したり、水が堤防を越す場合には土俵を適當の高さまで積み、杖又は竹で土俵を串差しにして固めます。真鍮は力一杯の杖打ち



撮影 内閣情報部

場工コバタの原太たし出き動

らか陸大新 修監部報情閣内 作製社信通型同



太原の少年たち



重機のもとに振り回されてもつた新タバコ
の機も再整備してトオストされる



むせるやうな新タバコはコンヴェイヤで次
から次へと運搬されてゆく



臨時の賣計窓口から今日ではじめて自分たちの
給料をうけとる可憐い女工さんたち

戦後のあと、労働者専業がはじまる。新大陸建設の第一歩だ。一般民衆で、その日／＼の口をうるはずもなく、唯うつくまつた大衆民たちが、このホスターに誘はれて来て見ると、工場の中の工場が今や立派に活動を開始しようとしてゐる。

『従現在件(通)へさあ、今からはじめよう』

『新野(ヨシキ)』

煙突から黒々と煙を吐き出して紡績工場も、毛織工場も、紙工場も、製紙工場も、マツチ工場も皆、復興の勢を機内一杯に運らせて動き出した。この生産品こそ支那四億の民の生活を支へるのだ。張りきつて働らく男女職工たちもほ



んとにさう考へるやうになつた。

今日、過去十日分の給料を買つた可愛らしい女工さんがその群しさも色々切れないといふ風だ。

『これを持つて歸つたら、フイチン(父)もマーチン(母)もきつと大喜びよ』その喜びは、町々に平和の色を一段と濃くしてゆく。街中のラヂオ塔が語る建設のニュース放送に民衆の耳もつひ響れはれてゆく。

×

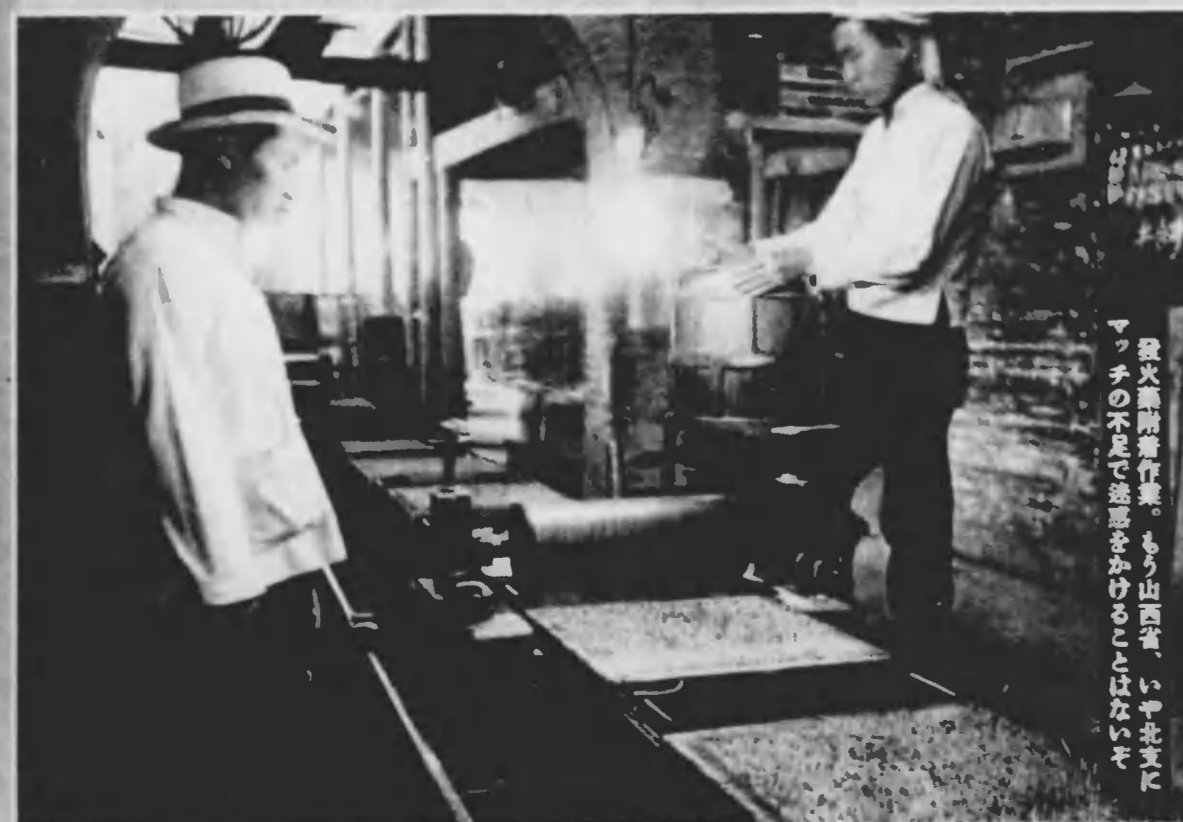
喜氣は新しい時代にめざめた中国民衆の手でダン／＼と力強く動き出した太原のタバコ工場、マツチ工場のスマル集。



更新らしい新製本が五枚、六枚……さあ、お母さんを買はせよう



マツチ工場でも中国人一達の活用されて、煙の材木が／＼と運搬されてゆく



殺火機が作業者。もう山をさぐりや北支にマツチの不足で迷惑をかけることはないぞ



集約された新は自動的に運ばあがられ、女工さんは箱づめに手を休めるひまもない



机

記事 小此木雄助 撮影 望月文香

吾輩は机である。しかし椅子はない。吾輩の主人は一日中立つて仕事をしてゐる。明るさの減つた電燈をもとせず、白い紙の上に見る間に線が描かれて行く。

吾輩の主人は設計家だ。仕事に夢中になると知らず／＼吾輩の上への上へ／＼と来る。男一匹の目方は相當こたへるが、こゝでキイと悲鳴を上げたら、主人の仕事が駄目になるから、脚を踏ん張つて、我慢をする。その爲めに見て呉れ給へ、吾輩の脚は突支持で連結した協同一致態勢だ。だが、苦勞したゞけの甲斐がある。吾輩の主人は、國民徴用令の一番に應召して、東亞新秩序達成の第一役を担つてゐる。

ナニ？ この人？ この人は今度の主人だが、正直を言へば、先の主人よりも、又少し目方が重いんだ。辛からうつて、ナニも頼もしいよ。

箱

吾輩は机である。四方に抽出があり椅子があり、やがて人間が四人集つて来る。それから抽出をあげて、脚を出し、ガチャガチャ／＼と吾輩の頭の上で掻き廻す。いやそのうるさいこと騒々しいこと魂消るくらゐだが、それをこの人間共は「實にいい音だね、僕この音が好きだね、日に一遍この音をきかないと寝られないんだ」など言つてゐる。それからどうするかと見てゐると、いゝ年をした大人どもが捨てたり拾つたり「ボン」とか何とか奇聲を發し乍ら、脚を並べつた。

「うーむ、おれはもう少しでマンガンが出来るぞ、うーむ」

唾液を呑み乍ら唸つてゐるが、「しかし、お前さん」と一言言つて見たくなる

「出来た／＼と仰るが、お前さん一體何を出したのだ」

先刻から一時間も坐り込んでバットを二箱、シナソバを一杯、總てを浪費したゞけではないか。



箱

記事 近藤日出道 撮影 望月文香

箱にポトンと落すお金の音をエヘラ／＼と楽しみなさいとすゝめたら、金色の夜叉を養成する様なもので、まことにキツはしくもみみつちい。けれど、このお金こそは、わが日本の滋養強壯劑であるぞと知つたら、この箱までがとても有難くなるだらう。鉄鏡のわれ／＼の赤心を一番具體的に積み立てゝゐるのだと確信すると、この箱を愛すること己がハートを愛するが如くなる。

貯金する子供じゝろ：これは重大な教育的素材となり得る。私には、お金をひたすらに有難がれとはとても言へない。ましてやお金を拜めなんぞと、そこいらの舞臺居見たいな文句は夢想も出来ない。いや、貧乏人のひがみ根性と言ふ勿れ。

私は、只もうお金の爲、より多くの人々の幸福の爲に貯金しなさいとすゝめるばかりである。お金の物より、お金を支配する人の心を尊重するのである。要するに、お金を愛する愉快さが、無駄使ひの味気なさを感ぜさせたとしたら、余の欣快とするところ、私やから見へてもサムライさ。

この際無理して洋服を新調に及び、エヤ／＼とやに下るなんぞは、身體有れども心無き輩。この際、この洋服着て、あの娘を射止めてやらうなんぞと企らむ輩は、眼あれども金盡まなこ。相當な女は相當時局も認識しちよる。

この洋服箱の蓋には、前新高級御洋服と書いてあらう。けれど、この男の頭腦と来たら低級にして時勢遅れ、しかも眼を張へぬこの輩に、彼女と責任ある要など持てよう苦もない。

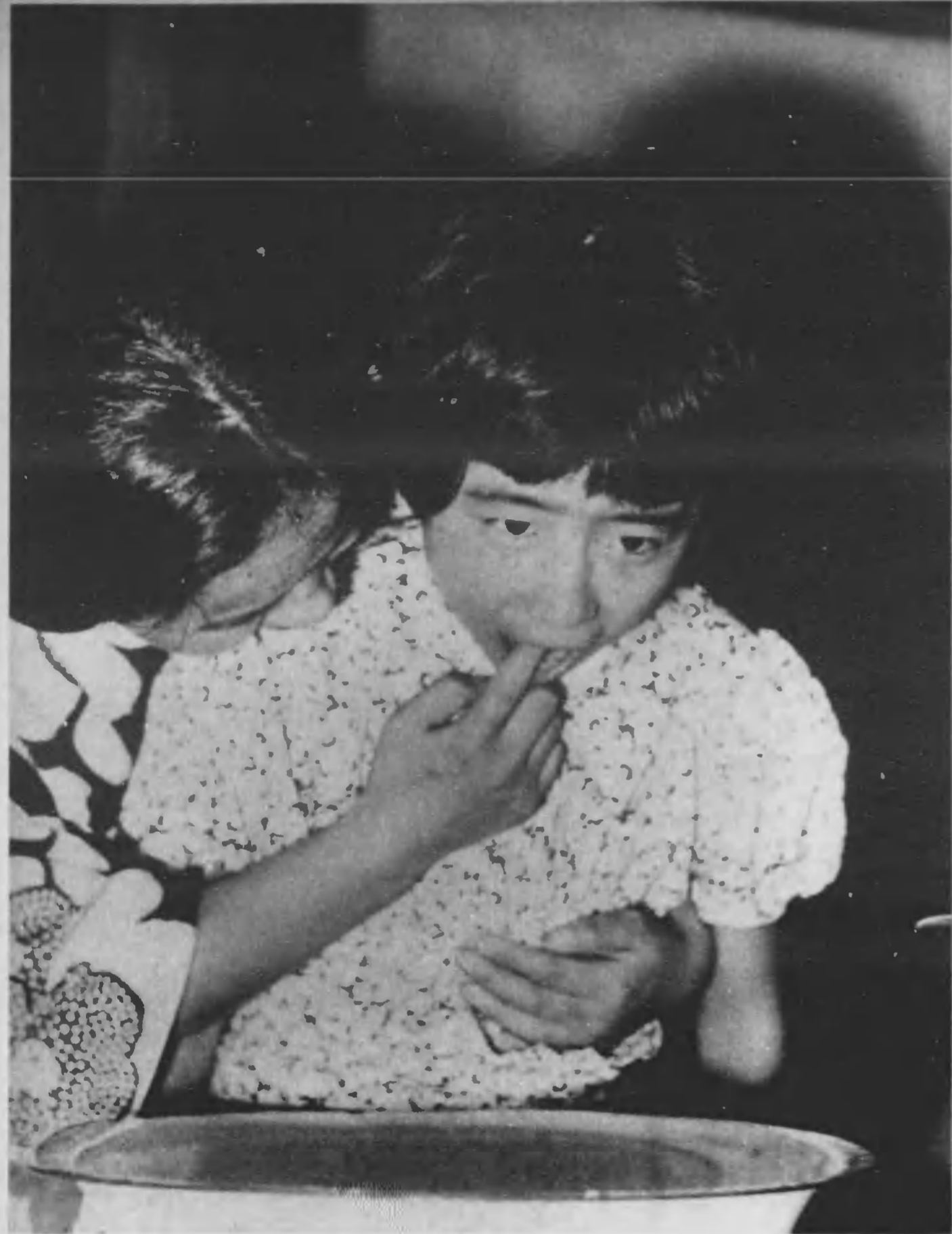
スマートであた／＼かこの洋服を着て、あちらこちらの女の子達に追ひ馳けられたい豫算だらうが、この輩をしつこく追ひ廻すものは、窓々とした請求書ばかり。

無理は必ず破る。虚勢はきつと型が崩れる。問題は、四角い箱にきちんと疊んで納まつた洋服ではない。五尺の身體に服々と波打つ愛國の血であり、ほとはしる實踐である。羊ヤラックの毛ではない。人の毛の本々々まで行き届いた大なる理解である。



中毒にかつた

厚生省豫防局



夏の終りから秋にかけては時々の變り目で體の抵抗が弱つてゐる上に、涼しくなつたと思つて腐敗に対する注意を怠り勝となるためか一年中で食物中毒の一番多い時です。東京だけについてみて、毎年秋には數百名の中毒患者を出してゐます。

日常屢々見られる中毒は蒲鉾、竹輪、薩摩揚げ、鰻、鰯、鱈の腐つたものと及び、河豚その他の魚類によるものです。

食物中毒の原因が以前は蛋白質が分解して生じたプトメインといふ毒物によるものと考へられてゐましたが、最近ではその他の原因が明かになり、確かにプトメインによるものと考へられるものは段々少くなりました。第一食物にプトメインが生ずるやうになりやすくと腐敗による悪臭が強く食べられなくなりました。

現今では食物中毒の原因は次のやうに考へられてゐます。第一に河豚や毒蕈のやうな食物中に含まれてゐる有毒成分によるもの、第二に食物中に混入した化学的物質例へば砒素、鉛、有毒染料等によるもので、銅から生じた緑青による中毒は従來考へられてゐる程多くはありませぬ。第三にゲルトネル菌、鼠チフス菌、豚コレラ菌等の細菌によるもので、これ等は何れも本來は動物の病原菌ですが、これ等の口に入つて中毒をおこすもので地方によつては野鼠の糞にこれ等の菌をだんご等の食物の中へ入れて使ひます。これが取扱上の不注意から人が感染して中毒をおこした例が度々ありますからこれ等の菌を糞に用ひることは非常に危険です。第四には過敏症によるもので、過敏症といふのは體の狀態が或物質に特に過敏な状態となつてゐて、他の人には何でもないやうな食物がその人には少くも食へてもひどい反應を生ずるやうな場合をいひ、幼児などが卵や牛乳を飲む度に下痢をするのはこの原因によるものが多いといはれてゐます。

民間には「食ひ合せ」といつて同時に食ふことを禁じてある食物がありまゝす。例へば鰻と梅干、鰻と柿、氷と天ぷら等を食ひ合せると、命にかゝるとか、腎に天ぷら、鰻と鯊魚、瓜と油揚げ等は胃腸となるの類で、これ等のものを、内には一地方において食ひ合せとてゐるものも、他の地方では平氣で用ひてゐるものがあります。學者の實驗によつても「食ひ合せ」には中毒病状をおこしたことがないといはれてゐますから特別に科學的根據をもつたものでなく、迷信に過ぎませぬ。しかし右の例でも判るやうに胃腸をこわし易いものゝ組合せが多く、例へば氷と天ぷらのやうなものではどちらもお病をおこし易いものですから、このやうなものは氣を付けるに似たことにはありませぬ。中毒の病状は、その原因や個人の體質によつて違ひます。輕度のものは軽い下痢、腹痛位で済みますが、ひどい時は激しい嘔吐や、下痢、腹痛がおこり、それが數週間も続くことがありまゝす。また時には急に血を吐いたり、血便を出したりして數時間の内に死亡してしまふことさへあります。熱は多くの場合大して出ませんが、細菌性の中毒は三十九度、四十度の高熱を發することがあります。また毒蕈といつて體中に赤い發疹が出て痒いことがあります。

緊急處置としては先づ毒物を出るだけ早く出してしまふことが最も必要で、食物中毒と判つたら咽喉の奥へ指を突込んで吐き出してしまひ、若し十分吐けない時は食鹽水を飲んで、胃の中のもの十分吐き出してしまひます。食べてから相當時間が経つてゐる時は食物は既に腸の中へ移行してしまつてゐますから、瀉薬をしたりヒマシ油を飲んで腸の内容物を早く出してしまひます。腹痛がひどい時は俯伏になつて腹部を温めると和らぎます。下痢や嘔吐がひどい時は一應赤痢

ヤコレラを疑つて、吐物や便の始末を厳にせねばなりません。醫師の診察は一刻も早く受けるべきですが、その際中毒つたと思はれる食物や吐物、便を残して置いて醫者に見せねばなりません。最も大切なことは中毒する虞のある食物を食へないようにすること、青酸の食物で少し腐敗臭のあるやうなものは食べないに限りませぬ。冷蔵庫から食物を度々出し入れしたりしなす、非常に早く腐りますから注意せねばなりません。其の見分け方は、一般に毒々しい色をしてゐたり形が變つてゐたり、妙な臭がしたりするものは毒蕈で、疑に疑けるものは食べられるといはれてゐます。しかしこの見分け方は絶対のものではありませんからよく知つてゐる毒の外は食べないようにするのが安全です。或食物を食べる度毎に毒蕈疹を生じたり過敏症による下痢をおこす人はその原因となつた食物を見付け出して再び食べないようにせねばなりません。

昇汞水、青酸加里、猫イラズ、砒素、諸種の睡剤等の毒物を誤つて飲んで時は短時間に内に呼吸麻痺、心臓麻痺等をおこして死んでしまひます。そして多くは非常に苦しんで死にまゝす。これ等の毒物を飲んだ時も普通の食物中毒と同じやうにして出来るだけ早く毒物を體外へ出してしまふことが必要です。昇汞や毒蕈の中毒の時は、牛乳か生卵を多量に飲むのが非常に効果があります。これは卵の白味や牛乳の中にある蛋白質と昇汞の中にある水銀や毒蕈の中にある銅とが結合してそれ等の毒物が體内に吸収されないうやうになるからです。反對に猫イラズの中毒の時は瀉薬類は嚴禁で瀉薬があると反つて毒が體の中へ吸収され易くなります。一般に毒物を飲んだ時は生きている限りも手當の早い温いによつて分れますから一刻の猶豫なく醫者をよばねばなりません。

「おまや、少し臭いんじゃない？」
「こんなに臭いのに、それに臭も大丈夫ですといつてあましたから。」とおまやにいはれ、しよ〜食へました。

「おまや、少し臭いんじゃない？」
「こんなに臭いのに、それに臭も大丈夫ですといつてあましたから。」とおまやにいはれ、しよ〜食へました。

「おまや、少し臭いんじゃない？」
「こんなに臭いのに、それに臭も大丈夫ですといつてあましたから。」とおまやにいはれ、しよ〜食へました。

食べてから相當時間が経過したときはヒマシ油を飲んだら瀉薬を行ひませう。

食べてから相當時間が経過したときはヒマシ油を飲んだら瀉薬を行ひませう。

食べてから相當時間が経過したときはヒマシ油を飲んだら瀉薬を行ひませう。



撮影 月文香

新眼薬 ルイマス



秋・今や山野に治し
痛み易き眼はスマイルもて護り
颯爽と光の世界に
行動し給へ!

注意
屈曲
80米突先

紫外線を防ぎ
どれけ、すて客有に眼は紫外線の秋は配心のそ、ばれす術常をルイマス線光が用作業いよ快ノすて用無く全く除を害障の眼のて凡、ぎ防を害のノすまりあてらか

店商置玉 社合式株 店理代總



床しい銃後風景

主人も店員も勇躍出征して男手なくした米屋さんへ「後は俺たちが引受けました」と京都市中區富田町軍分會員は毎日同家を訪れ、米の配達から御得意先への御用明まで引受け力強い援助をしてゐる

軍装に勇む女師生

米春三月學窓を出ると同時に第二國民の訓育に當るべき福岡女子師範生は軍事知識を一週り知つてをかねばと、福岡歩兵第二十四聯隊の管内見學と軍事教練の一日を送つた。六貫目以上の背負と銃兜とを著け、鼓の操作から伏撃射撃と實地訓練に汗たぐとなり銃後女性の意氣を示した



勇士へ送る五徳座蒲團

三重縣立阿山高等女學校生徒六百五十名は夏季休暇を利用して戦地の勇士へ送る五徳座蒲團六百五十枚を作り上げました。お母様の帯の片端、生徒が幼い日の「まご」と遊びのお人形さんの着物の残り切などを縫ひ合わせたこの座蒲團は勇士が大陣の寒さを防ぐのに、或は露草の夢の枕に、中に入れた乾草、おらは愛馬の飼料に、無装用に一方の紐を結めては蒲團にとまき五徳の品であります

銃後より戦地へ

東京市 小後眞正男
戦線の勇士が戦の合間や警備の小憩に思ひ出すのは留守宅のわが子や小さい姉妹たちのことである。東京市大森區新井宿六丁目銃後を接合はこのほど同町出征家族兒童の健康診察を行ひ「あなた方の留守宅のお子さんたちはこうして護つて居ます」と寫眞を添へて戦地へ送り勇を慰問した

讀者のカメラ



復習室

- 1 建武中興の御英主後醍醐天皇が崩御遊ばされてから何年になりますか？ (1頁)
 - 2 オーストラリアはドイツに宣戦したでせうか？ (6頁)
 - 3 井水木をあやまつて飲んだとさはどうすればいいでせう？ (18頁)
 - 4 吉野神宮には誰方をお祀りしてありますか？ (1頁)
 - 5 プトマインとは？ (18頁)
 - 6 水防作業で掛木とはどんな場合にするものですか？ (13頁)
 - 7 十月一日東京、大阪兩飛行場で命名式の行はれた愛國機は全部で何機でしたか？ (2頁)
 - 8 中毒だと思つたときはどんな應急手當をすればいいでせう？ (10頁)
 - 9 ボーランドはどこのことの國で分割しましたか？ (7頁)
 - 10 萬一利根川上流の右岸堤が決壊するとどんな結果になりますか？ (12頁)
- 一問十點としてあなたは何點でしたか？

週報三周年記念の夕

- ▽日時 十月十四日(土)開場 五時半開演六時廿分 日比谷公會堂
- ▽主催 内閣情報部
- ▽協賛 後援 東京府、東京市、横濱内務情報部長、河相外務省情報部長、清水陸軍省情報部長、金澤海軍省情報部長、普及部委員長、内閣情報部監修、社団法人同進通信社、製作(新大陸)
- ▽映畫 入場無料(演劇の時は入場券をお断りすることあります)

寫眞週報(藝文)

満目薄色に映えて戰場の秋戀、勇士は今日も草の實を踏んで黙々と江南の野をゆく。彼方に繁る杜の影に勇士はふと故郷の秋を想ふ。今ごろは柿が實つてゐるだらうなあ、栗もしきりに落ちてゐることだらう



所 込 中	價 定
昭和十四年十一月四日印刷發行 編輯部 内閣情報部 東京市豊町區永田町 内閣府大臣官舎内 發行所 内閣印刷局 東京市豊町區大手町	一部 十錢(送料別) (送料別) 九錢 ▲外埠郵便に依る場合は十錢(送料別) 九錢 ▲特約の割合を以て前金を添へて御申込下さい ▲特大紙の場合は其の郵便料込金より差額を申受けます
内閣印刷局發行課 電話丸の内(三)三五一九 振替東京一〇〇〇〇〇	全国各地官報販賣所 東都書籍株式會社 各書店・洋賣店 各新聞販賣店 寫眞材料店

東京通報 昭和十一年十月十日 第三千四百九十四号 昭和十一年十月十一日發行
 (通運) 加水曜日發行 第八十六號



國民的栄養劑

日本には慢性の胃腸病に悩む人が非常に多い。胃下垂、胃擴張、胃酸過多、消化不良とか便秘や加齢兒など、何れもビタミンB複合體の不足から來る弛緩現象です。

白米の常食に原因

元來、米や麥にも天然にはビタミンB複合體が含まれて居るのです。ところが實際にはそれを精白したり煮いたりして、故意にBを除去する結果、われわれの日常食物にはB成分が殆んど皆無となるのです。胃の消化機能を強め、アトニーを惹起します。腸の蠕動も鈍つて便秘或は下痢に傾くのです。

B複合體を補へ

これらに對し糖化劑や下劑が對症的に用ひられました。然し眞の對策は……不足したビタミンB複合體を補給して胃と腸の弛緩を更生することなければならぬのです……天然物中で最高のB給源と言はれる酵母剤エビオス錠がこの目的に貢献するわけです。

三〇〇錠…一圓六十錢
 一〇〇〇錠…四圓八十錢
 粉米もあり

酵母劑エビオス錠

(判給と販運・A4格規定圖はさ大の書本)

内閣印刷局印刷發行